

第5回新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会について（会議録要旨）

1 開催日時 令和5年1月25日（水） 9：32～11：26

2 開催場所 盛岡市役所本庁舎別館4階404会議室

3 出席者

(1) 委員 8名（欠席1名）

倉原宗孝座長、中島清隆副座長、菊池透委員、小枝指好夫委員、今野紀子委員、高橋悟委員、小野田摂子委員、佐々木みどり委員

(2) 一般傍聴者 3人

(3) 報道関係者 8社

(4) 事務局

佐藤総務部長、小笠原都市整備部長、立花総務部次長、阿部総務部次長兼情報企画課長、鈴木管財課長、齋藤都市計画課長、大坪市街地整備課長、鈴木企画調整課長補佐、遠藤管財課長補佐

4 会議の概要

(1) 開会

遠藤管財課長補佐の進行により、第5回新市庁舎のあり方に関する有識者等懇話会（以下「懇話会」という。）を開会した。

(2) 意見交換

座長の進行により、別添「意見交換内容」のとおり意見交換を行った。

(3) その他

佐藤総務部長から委員へ挨拶を行った。

また、市長への意見書の提出は2月9日（木）を予定している旨、説明を行った。

(4) 閉会

《意見交換内容》

(座長)

今回で最終回となります。いつものように自由なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いたします。では、次第に沿って事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※資料1および資料2の説明

※資料1(1) 新市庁舎整備の必要性 読み上げ

(座長)

資料1は、前回の懇話会から皆さんのご意見を踏まえて、事務局で再修正したものです。「(1) 新市庁舎整備の必要性」について、皆さんからご意見をお願いします。

※意見無し

では、「(2) 新市庁舎整備に必要な機能」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(2) 新市庁舎整備に必要な機能 読み上げ

(座長)

「(2) 新市庁舎整備に必要な機能」について、皆さんからご意見をお願いします。

(委員)

2 ページ一番下の行の「盛岡の気候にも配慮した・・・」というところですが、「業者選定に当たっては慎重に」と書くと、ここだけギラッとしませんか。言葉はお任せしますが、盛岡のことを考えた業者さんに頼んでほしいという趣旨ですので、「盛岡の気候にも配慮した設計・建築になるよう慎重に行われたい。」というように、「業者」という言葉を削ったほうがよいと思います。

(座長)

趣旨としては、気候風土に合って、そして地場産業にとってもということですが、「業者」という言葉ですよね。

(委員)

「業者」というとギラットするような感じがします。

(座長)

文章だとそのような印象を受けるということですか。

(委員)

「設計計画においては慎重に行われたい。」という言葉の後ろに付ければよいのかもしれませんが。

(事務局)

ご指摘を受けまして、直球的な言葉にならないように調整したいと思います。

(座長)

それでは表現について、事務局で検討をお願いします。

では、次の「(3) 新市庁舎の規模」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(3) 新市庁舎の規模 読み上げ

(座長)

規模ということですが、3つめに「新市庁舎の規模は」とあり、次の行に「人口減少やDXの推進等による将来の規模を想定した」とあります。最初の「規模」は新庁舎の大きさだと思うのですが、次の「将来の規模」は、同じようなニュアンスになるのでしょうか。

(委員)

盛岡市全体ではないでしょうか。DXの推進と言っていますし。

(座長)

前者が建物の規模で、後者が盛岡市全体の規模ということですね。

(委員)

2つの見方があるのではないかと思います。働き方の柔軟性がなってきたときに、市庁舎で収容する執務室と在宅での働き方の執務室では、まちの規模ではなく、勤務場所としての市庁舎の規模に影響が出てくるのではないかと思います。

(座長)

いろんな意味で規模の大事さが含まれてくると思います。

(委員)

そういう意味では、建物だけではなくて、中に入るところの規模という意味合いが後者に含まれると思いますし、市全体の規模という意味も含まれてくると思います。後者のほうが広義的な意味になると思います。

(座長)

この文面から読み取れるとよいのですが、一応確認でした。

(委員)

まえがきで、本庁舎や分庁舎が増えてきた経緯について記載しています。新市庁舎とは本庁舎のことだと思いますが、今ある分庁舎と新市庁舎の役割分担や機能分担をはっきり持たせる必要があるのかなと思います。

(座長)

後者には機能面も含まれるのかなと思います。

文面に一言加えてもよいかもしれませんが、頭の中で認識していれば問題ないでしょうか。

(委員)

将来のビジョンの規模というような形容詞が入るとすっきりするのかなと思います。

(座長)

このままでも問題ないとは思いますが、よい言葉があれば、提案いただければと思います。

(委員)

規模ではなくて、ビジョンでもよいのかもしれませんがね。

(座長)

このあたりは、事務局に検討いただくということでよろしいでしょうか。

(事務局)

調整させていただければと思います。

(座長)

では、次の「(4)整備方法」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(4)整備方法 読み上げ

(委員)

2行目に「移転新築が望ましいという共通認識に至りました。」とありますが、5ページの新市庁舎の整備エリアの項目で「3つのエリアを中心に」とあります。現在地の内丸エリアも候補になると思いますが、内丸エリアの中でも現在地ではない別の場所という想定になると思います。

「3つのエリアを中心に」という言葉を「移転新築」の前に入れると、内丸エリアが候補から外れたという勘違いがなくなると思います。

(座長)

現在地と内丸エリアとでは意味が違うということを明確にするということですね。

(委員)

それから、「中心に」という言葉で3つのエリアだけではないということも含まれるのでよいと思います。

(事務局)

誤解のないように文言を修正したいと思います。

(座長)

では、「(5)事業手法と資金計画」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(5)事業手法と資金計画 読み上げ

(座長)

さきほど、「業者選定」という言葉に違和感がありましたが、ここの「業者選定」はなじみますね。

(委員)

そうですね。

(座長)

では、「(6)新市庁舎の整備エリア」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(6)新市庁舎の整備エリア 読み上げ

なお、前回の懇話会において、現市庁舎の建設から60年の間に浸水があったかという質問がありました。調べたところ浸水したという記録は残っていなかったことを報告します。

(委員)

意見書だけを見たときに、3つのエリアとはどこかということになりますので、「(内丸エリア・・・)」などと書いたほうがよいと思います。

(委員)

「報告書で挙げられている」とありますが、報告書は意見書とは別のものなので、資料を添付するなど明示したほうがよいと思います。文書にも記載したうえで資料も付け加えれば親切です。

(委員)

意見書が表に出るときは、意見書と報告書がセットで出るのか意見書が単独で出るのかで変わ

ってくると思います。

(事務局)

意見書は単独となりますが、ホームページには報告書も掲載したいと思います。

(座長)

意見書は意見書として、完結したほうがいいと思います。

(委員)

「報告書に挙げられている3つのエリア」に「(内丸エリア・・・)」と書く程度でもよいのではないのでしょうか。

(委員)

市民の関心も高いので、ここに3つのエリアを記載するのがよいと思います。

(事務局)

文章中に、括弧書きでエリアを加えたいと思います。また、ホームページ上では報告書も掲載したいと思います。

(委員)

「◆その他」の最後で「市有地があっても、条件により必ずしも優位とはならない」の表現は誤解が生まれやすいと思います。このときの議論は、駅西エリアとなった場合に駐車場の代替を整備しなければならず、建設費が膨らむのでコスト面で必ずしもアドバンテージにはならないという議論だったと思います。また、多面的に物事を見たときに優位性が変わるので、多面的に見ることが大事ではないかという議論になったと思います。前段のところ、評価軸を設けることが大切だという話があって、その実例としてコストだったら駐車場を考えるとメリットがないという一例でしかないという認識です。ですので、この文章を残さなくてもいいのか、もしくは評価軸を定めたことによって、多様性を見方をしたときに優位性が変わるから注意してほしいという意味になるのか、例ではなく意味として置き換えていただくほうがよいと思います。

(委員)

私も悩ましいなと思っていました。会議の前に事務局に送った文案では、「活用が可能な市有地があることは、それが不要遊休地でない限り、用途の変更が必要となることから、必ずしも優位とはならない。」最終文案は市にお任せしますとしておりました。

委員が仰るとおり難しいですね。

(座長)

削っても問題ないと思います。意図としては大事ですが。

(委員)

評価軸の話は冒頭に記載されたので、そこに吸収されると思います。

(座長)

それでは、ここは削るということによろしいでしょうか。意図は前に書いてありますので。

(委員)

6 ページのアクセスのところ、「高速道路」という言い方を工夫してほしいと思います。国土交通省が報告書に書くなら「自動車道等」という言い方になるのでは。

(座長)

そちらのほうがいいですね。

(委員)

「(7)事業手法と資金計画」について、事務局でもれなく確認されるとは思いますが、補助金の活用についても、条件や時代によって内容や金額の増減などがあると思いますが、盛り込んでいただければと思います。

それから、防災・災害対策の視点で、市民会議で「県都」というワードがありましたので、地震が来たときに県都としてどういうことが出来るのかという視点も必要かと思います。震災の時に滝沢市のアピオが物流拠点になったり、遠野市が自衛隊の基地になったりといったことがありましたので、市として何かお手伝い出来ることがあるのかということを考えております。

(座長)

前段のお金の話は、クラウドファンディングに関連する部分だと思いますが、事務局から何かありますか。

(事務局)

その時代で補助金の考え方が変わってくると思いますが、最大限活用出来る補助金は活用することかだと思います。工夫して文に入れたいと思います。

(座長)

クラウドファンディングの文に一言加えてもよいと思います。

後段は、県都としての庁舎についてです。防災に限らない話かもしれませんが、皆さんいかがでしょうか。

(委員)

岩手県内のほかの自治体のことを盛岡市が管轄しているのかということだと思います。岩手県庁になると思いますので、管轄は盛岡市内だと思います。

(委員)

気概としてのシンボルということだと思います。決められた役割やルールではなく、気概の問題だと思いますので、入れるなら「シンボル」のところかなと思います。

(委員)

盛岡市は中核市ですが、そういったことが関係するのか、いかがでしょう。

(委員)

基礎的自治体としては一緒です。ただ、防災だけは横の連携として、宮古市などの中心は盛岡にしようというコンセンサスがあり、震災の時はうまくいったのですが、それは盛岡市としてこれからやるぞ、ということではなく、あの時はうまくいったからいい仕組みだなという程度なので意見書には書きづらいところです。

(座長)

個人の意見ですが、県都として、シンボルなら書きやすいですが、防災という点ではこの仕組みは模索段階なので書きづらいと思います。

(委員)

国では南海トラフの問題があり、東日本大震災の反省を踏まえて、地方公共団体同士のことを模索しているようですが、まだ書ける段階ではないと思います。

(事務局)

市庁舎として、市民の財産を守るという書きぶりですが、他の市のことまで踏み込めるか。支援体制というのはあると思いますが、検討が必要と思います。

(座長)

「県都」としての仰る意味は分かりますが、意見書には書きにくいということでもよろしいでしょうか。

(委員)

お金の話ですが、そのとき使えるものをうまく使って財政負担を減らすということに尽きると思います。例えば、まち・ひと・しごと創生総合戦略からデジタル田園都市国家構想総合戦略というのがありまして、地方創生となるためには、デジタルなどのキーワードがあると補助金の対象になります。これを市庁舎に絡めればよいと思います。活用出来るものは活用するということ

が大事だと思います。

(座長)

クラフトファンディングとかそういう言葉に絡めるとよいと思います。

(委員)

新市庁舎の整備エリアは、ページ数も時間もだいぶかけたところです。この問題はそれだけ揉めるところで、次の委員会でも揉めると思います。「3つのエリアを中心に」とあり、「方針に基づいた統一の評価軸を設定し評価する必要があります。」とあり、次に「評価軸及び考え方についての意見は次のとおりです。」とあります。ここでもたくさんの意見があり議論があったのですが、出た意見は可能な限り入れたほうが、次の委員会でもどのような意見が出たか参考になると思います。先ほど、削ることになった部分もそういう視点があるんだということになりますので、どこかで出したほうがよいと思います。例えば、「評価軸による比較を行うときに優位性は条件のいかんにより変化することを考慮することが必要である」など、そういったことが次の委員会の助けになると思います。ここで出した意見がどこに着地したのか、着地できなかったのか、何が先送りされたのか、ということを確認することは重要だと思います。

(座長)

今のお話を聞くと、確かに削るのはもったいないので残す必要があると思います。一方ですべてを盛り込むと意見書としてどうかなとも思います。別の資料として残しておくのか、意見書の中に入れるのか、もしくは妥協するのか、いかがでしょう。

(委員)

会議録があるのでそれはよいと思いますが、エリアの話は、委員の仰るとおり後の議論のために入れるほうがよいと思います。

(座長)

文面は変わるかもしれませんが、残すということにしたいと思います。

他いかがでしょうか。

(委員)

防災・災害対策のところですが、内丸エリアと駅西エリアが洪水浸水想定区域になると思いますが、先ほどの事務局説明でも洪水の被害は無かったということなので、考え方が変わってくると思います。ダムも出来ています。内丸エリアの課題は、洪水浸水区域だと思いますが、木造だとしても昔の校舎のような木造ではなく何十年でも使えるものが出来ています。「建設場所の選

定や技術的な対応等により、解決や一定の対策を講ずることが出来ることを考慮されたい」ということが示されていますが、そのとおりだと思います。

(座長)

木造は弱いと書いていますが、後半で技術的な対応も出来るという両方の意見もあるということです。相反する意見も載せるということですので、よろしいかと思います。

(委員)

駅西の冷暖房システムが出来た当初は、市役所の移転先が駅西で決定していたのではと思います。ただ、浸水想定区域のマップが出来たときに、浸水するかもしれないということがあり、報告書の段階で、整備エリアを3つにしたのだと思いますが、このことは進歩だと思っています。駅西に市の土地があるからということではなく、選択の範囲を広げたのはよいことだと思います。先ほど、ダムの話がありましたが、ダムがあっても万能ではないですし、近年は想定外の災害があります。危機管理の観点からも全く大丈夫なエリアはないと思います。そういったことを考慮して、少しでも想定される場所は、なるべく外すべきなのかなと思います。

(委員)

今まで60年起きてなかったことが、今後60年起きないのなら可能性は限られると思うのですが、何年前に、はじめて岩手県に直接台風が上陸したことがありました。今後、これからの60年がどうなるか分からないと思います。ダムでどこまで防ぎきれると見込まれるのか。盛岡市の環境部で「盛岡の環境」という報告書を作っていますが、これには気候変動の影響も書いています。これからの60年は難しさが増すということになるとそのことも想定する必要があると思います。行政機能が異常気象によって機能しなくなる場合に何が起こるか、東日本大震災のときに沿岸で行政機能がなかったことを思い返すと難しい状況になるということが推測できますので、整備が「望ましい」という表現が妥当、適切なのかなと思います。

(委員)

現時点の制度として、想定区域がある以上、区域内よりも区域外のほうがよいという認識があります。木造とは書かないで、今の制度があるので避けたほうがよいという程度の記述にすればよいと思います。

(座長)

木造と限定せずに広い意味で書いたほうがよいか、もしくは災害要素として、浸水のことをあえて書くか、どちらでしょう。

(委員)

水のある所では木造建築は望ましくないということは、個人的には分けて書いてほしいと思います。

(委員)

洪水だけでなく異常気象で何が起きるのか。もしくは激しい地震があるかもしれないし、まったく先がわからない。防ぎようのない災害もあると思いますが、たしか長崎県庁だったと思いますが、木造の災害に強い庁舎を建てたというニュースを見ました。災害を避けるとか守るとか難しい問題だと思います。想定外のことが想定できないという不安があります。

(座長)

洪水のことは洪水として注意したいということでリアリティがあります。一方でいろんな災害もあるのであらゆる災害に対することも必要だと思います。

(委員)

そのとおりだと思います。川の洪水だけでなく内水もあります。

(座長)

あらゆる災害について、一文加えるということによろしいでしょうか。

では、「(7)現市庁舎の跡地活用について」と「(8)今後の進め方」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

※(7)現市庁舎の跡地活用について、(8)今後の進め方 読み上げ

(座長)

質問ですが、1つ目の「(仮称)内丸プランにおいて、中津川などを含め」のところ、「内丸プランにおいて」というのは、市庁舎以外の他の事業も関連した計画ということだと思いますが、「中津川などを含め」というのは、建物の敷地内だけではなく周辺環境を含めて、ということで、前者は他の計画に配慮して、後者はエリアのことをいっていると理解してよろしいのでしょうか。

(委員)

文章としては、内丸プランで検討されたいと読めますよね。

(事務局)

市では内丸エリアの今後のあり方について、各施設とも60年くらい経ちますので検討を進めています。その中でお城の関係性であったり城下町や自然の資源として中津川の親水空間であった

り、そういうところを検討していますので、意識して書いていただいていると思います。また、次の行で、まちづくりや全体の計画のこともありますので、あえて分けて書いているのかなと思います。

(座長)

ということは、内丸プランにお任せするということですね。文面として悪くはないですが意図としてどうかと思いました。

(事務局)

「中津川など」というのは、景観の構成要素、一例として大事なことだという意図です。分かりづらいということであれば、「中津川を含め」などと表現すればよいかもしれません。

(委員)

内丸プランで検討されたいという意見は、議事録にありましたか。

(委員)

「内丸プラン」だけではなく「内丸プランなど」となるではないでしょうか。内丸プランを含めた他の計画ということだと思いますので、私たちの意図が通じるように調整していただきたいと思います。

(委員)

この話をしたのは私です。今年と来年にかけて内丸プランを作って、その後に調整が入ると思います。建物の持ち主がたくさんいますので、その調整の一つとして、盛岡市役所も大事ですという意図でしたが、内丸プランに任せるという意図ではないので、「内丸プランなど」という表現がよいと思います。

(座長)

内丸プランのほかにもいろんな計画も考慮してということですね。

(委員)

跡地の整備ということであれば、内丸プランを削ってもよいのでは。「など」でもよいですが。

(委員)

内丸プランも盛岡市が主体ですので、削ってもよいかもしれない。

(座長)

いろんな計画に配慮してという意図だと思います。下に「他の計画との整合性」とありますので、そちらに含まれるのかもしれませんが。

(委員)

「他のまちづくり等（内丸プラン）など」としてもよいかもしれません。

(座長)

内容は否定されるものではないですが、表現は事務局に検討していただきたいと思います。

(委員)

「中津川や岩手山の眺望など今の景観を崩さず」など書けばよいと思います。

(座長)

象徴的なのもう一つぐらいあると分かりやすいと思いますが、事務局にお任せしてよろしいでしょうか。

(事務局)

「（仮称）内丸プランにおいて」は削除して、2つ目の「他のまちづくり」に「（仮称）内丸プランなど」というような表現を考えたいと思います。また、中津川のほかにも岩手山も入れるという修正をしたいと思います。

(座長)

それでは、全体を通してご意見をお願いします。

(委員)

整備エリアについてですが、以前、盛南エリアに防災拠点となる施設がないという資料があり、市立病院やアイスアリーナはいかがですかという意見を出しました。その後、発想を変えまして、エリアー帯は一大防災拠点となるような気がします。実際には検証や試算が必要になると思いますが、スケートリンクであれば大きい冷蔵庫や冷凍庫、チルド室として生鮮食品の物資保管として使えますし、プールは貯水池や水の確保につながるかもしれません。駐車場が広いですし、特殊車両も入りやすいです。ただ、元々はスポーツ施設の集結という想定で始まりましたので防災拠点という側面はないと思います。今後施設整備の更新に当たっては、アリーナの空調設備にそれなりの機能を持たせれば何千人の収容が可能になると思いますので、可能であればそういった視点も持っていただくとよいと思います。

(座長)

この段階で意見書に盛り込むのは難しいですが、今後に向けての意見として残して、もし使えるのがあれば意見書に入れるということでよろしいでしょうか。

(委員)

全体を通しての意見ですが、1ページの冒頭のところ、「なお」からはじまる文で「多様な視点での意見」と「相反する意見」を入れているということは、この懇話会の大事な要素だと思います。同じ扱いではなく強く表現できたらと思います。それから、7ページの一番最後に「新市庁舎の整備を待たずに対応出来ることは対応すべき」という部分は、未来に向かって投資することの大事さ、数年後の新庁舎をよりよくするための働きかけが大事だという我々の意見だと思います。前段と後段の部分を強調出来たらよいと思います。

(座長)

前段の部分は、「なお」ではなく強調したいということですよ。

(委員)

多様性と相反するというのはキーワードだと思います。ここがないと矛盾だらけの意見書になってしまうと思いますので。

(委員)

申し添えているのではなく、議論の材料として我々は打ち出したということだと思います。

(委員)

「各委員から出された意見は、次のとおりです。」となっていますが、「出された意見は多様な視点での意見を整理したものであり、相反する意見もあります」というような内容で文章を整理していただければよいと思います。

(座長)

相反する意見の内容もですが、同時に相反する意見があることが重要だということを強調したいということだと思います。最後の部分も出来ることはやるということが未来の庁舎にとっても大事だということだと思います。このあたりの表現は事務局にお任せしてよいですね。

(委員)

意見書のまえがきのところですが、1ページに収めたいでしょうか。盛り込みたい内容を追加出来るのかということを確認したいのですが。

(座長)

事務局はいかがですか。

(事務局)

問題はありません。

(委員)

そうであれば、市民会議や有識者等懇話会にも通じる話題として、ニューヨークタイムズの2023年に行くべき52か所の記事で、ロンドンに次いで盛岡市が2番目に出ていました。メディアの皆様のご報道であつたり盛岡市でも広報されていたと聞いています。新市庁舎に関する懇話会や市民会議ではありますが、市民会議の報告を見ても盛岡市のまちづくりという観点から新市庁舎をどうするかというところ、それから選定された理由として、歩いて楽しむまちや景観というところが長年盛岡市の関係者の皆様が作ってきたことが評価されたものだと思います。ただ、最近出た記事ですので懇話会の意見として盛り込むのは難しいと思いますので、まえがきで触れるのはどうかという提案です。盛岡のまちの魅力につながるような新市庁舎のあり方は、意見書にも通ずるところだと思います。

もう一つ、昭和と平成と令和の元号がありますが、3つの元号があると西暦も書いたほうが、最初の段落は年月が経っているということで書いたと思いますが、元号と西暦を併記すると期間が分かりやすいと思います。

(座長)

やはり1ページに収まるとよいかなと思いますが、行間を詰めれば対応出来るかもしれません。元号については情報は詳しいほうがよいですが、その都度入れると煩わしいかもしれませんので、検討させてください。

(委員)

元号が出てくる最初のところで補足として西暦を表記すればよいと思います。

(委員)

整備エリアについてですが、先ほどの記事と絡めて、現市庁舎のまわりは歩いて楽しめるころだと思います。盛岡にはどのような産業があるか分かりませんが、環境資源はあると思います。しかし、盛南エリアは非常に広いので、もし市庁舎が出来れば、そこから歩いて楽しめるまちが出来るとなると大変な移動距離になります。バスに乗っていくほどの距離ではないですし、行ったついでに少し歩こうとなっても広すぎる、そのような不便があるかなと思ったりしました。

(座長)

歩いて楽しめるウォークブルシティに取り組まれているということだと思いますが、歩いて楽しめるということは親しみを感じられるということで、盛岡にとっては大事なことだと思います。

それでは、細部の文言については、私と事務局にお任せいただくということでよろしいでしょうか。

それでは、最後の懇話会となりますので、委員の皆様から一言いただければと思います。

(委員)

新市庁舎の問題は、市民や事業者がすごく注目しています。昨日参加した会合でも出たのですが、中には内丸一本という人もいるのですが、私はいろんな意見があって懇話会のような会議もやっているのだと伝えていきます。すごく市民が注目しているということと、盛岡はマストゴーの都市になったと思います。先週、日本商工会議所の会合がありまして、会頭からもそのような話で、盛岡はすごいですね。いいですねという話がありました。日本全国の会議に行くと必ずこの話がでます。盛岡は今注目されていますので、懇話会の意見も踏まえてさらに詰めていただいて、より良いまちづくりになればいいなと思いました。ありがとうございました。

(委員)

町内会を預かっております。それぞれの地域がありますが、その中でも現市庁舎がある内丸地区は盛岡らしさということが残っておりますが、様々な意見があって勉強になりました。これからいろいろな意見をまとめるのが難しいかもしれませんが、立派な新市庁舎が出来ればいいなと思います。ありがとうございました。

(委員)

身体障害者協会から推薦されて参加したのですが、弱者、高齢者、障がい者が使いやすい庁舎であればよいと言われていましたので、その方向に向かっていく、すごく夢がある楽しい懇話会でした。協会でも懇話会のことを報告するのですが、建物へのアクセスについても高齢者や障がい者にとって便利になればいいねという話をしております。皆さんの話を聞かせていただいて良かったです。ありがとうございました。

(委員)

無事に5回の懇話会を最後まで終えること、このような機会に参加させていただいたこと、皆様のご意見を伺うことが出来たこと、本当にありがとうございました。実際に建物を建てる時にここにいる人がどれだけ残っているか分かりませんが、将来、過去を振り返った時にこの議論が役に立つことがあればよいと思って参加させていただきました。来年度以降も議論を尽くすことになると思いますが、未来に向けて投資出来ることが継続できればと願う次第です。

(委員)

所属大学では環境政策論という教育研究活動をしていまして、懇話会のお話をいただいたときは環境エネルギー政策の分野から新市庁舎の観点にご意見をいただければということでした。盛

岡市の環境審議会の委員も務めていますので、その分野の意見が自分の役割とっていました。ただ、新市庁舎の整備について、環境エネルギーについて言えることは少なかったと思います。むしろ委員の皆様の様々な観点から、建物だけではなく盛岡市のまちをどうしていくのか、将来にどう引き継いでいくかという意見を伺うことの大事さを感じました。多様な意見や共通、相反する意見ということが先ほどありましたが、難しい課題ではありますが、考えるヒントになったのかなと思います。それから、先ほど、新市庁舎の整備についての検討が注目されているという話がありました。座長が欠席されたときに、副座長という立場で代役をさせていただきましたが、学長からテレビを見たよと言われ、注目されているのだなと感じました。これからますます注目されていくと思います。出来るだけオープンで多くの方々に意見を求めての調整や決定になると思いますので、懇話会や市民会議のような決定プロセスを大事にしていだければと思います。

(委員)

5回の懇話会を通じて、印象的だったことが2点あります。1点目は、市民の意見を丁寧に聞こうとする姿勢がシステムに組み込まれていて、それを積み重ねていく姿勢が印象的でした。東京都だと市民の意見を聞くという姿勢が欠けておまして、岩手県全体や盛岡市が市民との協働作業を重視しているという印象を持ちましたし参考になりました。

2点目は、先ほど市庁舎が実際に建造物として実現する頃に何人残っているかという話がありましたが、防災の話でもあったように形あるものは必ず壊れますし、生きている者は必ず死にます。市庁舎が新しく建っても、災害が起きて市庁舎が壊れたり浸水したときにはまわりの建物も同じ状況になります。重要なのはそのようなときに人間がどのように行動してどのように救助活動であったり将来に向けた生活設計を柔軟に行えるかということで、大事なものは形ではなくて、そこに携わる人たちがどのようなプロセスを経て合意に至って、どのようにこの先の社会構造や将来設計を決めていくかということをお話し合った事実であり、そういったことの積み重ねが形になるという逆の発想ということを実感しました。プロセスを大切にすることとそのプロセスが最終的に形になっていくという実践的な試みに参加させていただいてとても有益でした。ありがとうございました。

(委員)

ここまで来たなというのが正直な実感です。事務局のたたき台の報告書の厚さから、並々ならぬ決意を感じましたし、市民会議の皆さんの毎回の熱い議論を見て、襟を正して参加させていただきました。私の意見も丁寧に汲み上げていただいて、いくらかでもお力添え出来たらありがた

と思います。ありがとうございました。

(座長)

座長ということではありますが、何もしておりませんで、むしろ皆さんのご意見に助けられたと思います。お一人お一人に自由にご意見をいただけてありがたかったですし、市民会議の話やいろいろな場面で聞くご意見は非常に参考になりましたし大切なことだと思います。加えて、事務局の皆さんも大変ですし、これからもっと大変になると思います。ありがとうございました。市庁舎をどう建てるかが目的でしたが、それに対して貴重なご意見をいただきながら、行政とは何か、まちとは何か、あるいは社会とは何か、これからどうあるべきか、ここまで含めたいろんなご意見があったと思いますし、そのことが翻って形としての市庁舎に向かっていければと思います。これから具体の課題を詰める作業があると思いますが、何か機会がありましたらまたよろしく願いいたします。5回の懇話会大変お疲れさまでした。ありがとうございました。では、事務局にお戻しします。